

かごんますみ色

へ色

かるかん色

さくらじま色

からいも色

さつまむらさき色

りかけす色

あいおおしま色

きんこうわん色

おがわんたき色

おおすみだいち色

くすのき色

てげてげ色

あつまっ色

きんかん色

めこ色

かごんすず色

さばいやんせ色



# かごんまの色®

まっぼしトーン編  
[第2.1版]



鹿児島大学 環境色彩学研究会

ISBN978-4-9910387-2-3 非売品

# 未来へつなげたい地域の色

私たちの生活環境を取り巻いている色。  
色は身近な視覚情報であるとともに、  
風土や文化と密接に結びついた貴重な地域資源でもあります。

山の色、海の色、土の色、樹木の色、食べものの色、  
生きものの色、ふるさとの言葉に対して抱く色など…。

当たり前だと思っている地域資源とその色は、  
私たちの心に留まり、願いが込められ、  
あなたと私をつないでいます。

しかし、地域資源そのものがなくなれば、  
その色は、二度と取り戻せないかもしれません。

ふるさとの地域資源から  
地域らしい色（ローカルアイデンティティカラー）を再発見し、  
かけがえのない、彩り豊かな地域らしさを  
未来の私たちへとつなげていきませんか。



鹿児島県の様々な地域資源色（例）

# 地域共創による「かごんまの色<sup>®</sup>」の策定

かごんまの色<sup>®</sup>の策定にあたり、鹿児島大学 環境色彩学研究会は多くの方々の協力を得て2016年から調査・研究を行ってきました。はじめに鹿児島県全域から地域資源色を集めるため、特産品、景観、暮らしなどの領域を考慮して、138の調査対象を選定しました。

次に機械測色、視感測色、印象調査により測色調査を行いました。

そして地域のみなさんが未来へつなげたいと思う色を明らかにするため

2019年2月に「かごんまの色総選挙」(有効得票数 1,530)を行い、

上位20色を示したかごんまの色<sup>®</sup>カラーガイドを試作しました。

このカラーガイドを用いて、様々なデザインの領域やまちづくりに関わる方、

高校生や大学生とかごんまの色<sup>®</sup>の活用法について意見交換を行いました。

その中で「鹿児島らしい景観や商品開発を検討する際に活用したい」、

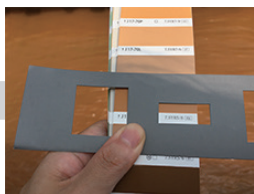
「子ども達に伝え聞かせたい」、「ふるさとの色を眺めながら鹿児島の良さを感じたい」

など貴重な意見をいただきました。

これらを踏まえ、まちづくりや色彩の専門家、職人・デザイナーへのヒアリングを経て、かごんまの色<sup>®</sup>まっぼしトーン編リーフレットを制作しました。



調査対象の選定  
(2016年)



測色調査  
(2016年～2019年)



「かごんまの色総選挙」  
(2019年2月)



「かごんまの色」カラーガイド試作  
(2019年4月)



「かごんまの色60人会議」  
(2019年4月)



職人・デザイナーへのヒアリング  
(2019年5月～7月)

# 「かごんまの色<sup>®</sup>」について

かごんまの色<sup>®</sup>は、「鹿児島県らしさ」を色で表現するために開発したカラーセットの総称です。

かごんまの色<sup>®</sup>は「かごんまの色総選挙」の上位色を踏まえたまっぼしトーン\*(18色)と、

その他の色に基づいたわっぜかトーン(63色\*\*)に分かれています。

まっぼしトーンは全体的に鮮やかな色、わっぜかトーンは様々な色で構成されており、これらは配色をしたときに美しく見えるように配慮されています。

ひとつひとつの色には、様々なデザインに活用できるよう、

本研究会制作によるオリジナル色名やカラーストーリー、複数の色彩値などを付しました。ちなみに、鹿児島県の言葉で「かごんま」は鹿児島、

「まっぼし」は真正面、ちょうど、ずばり、「わっぜか」はすごく、とても、非常に、などという意味です。

このリーフレットでは、まっぼしトーンの18色について紹介をしています。

\*トーンとは色の三属性(色相・明度・彩度)のうち、明度と彩度を組み合わせたもので色調を意味します。 \*\*2019年8月時点



かごんまの色<sup>®</sup>の構成

## ①オリジナル色名

きばいやんせ色 (気張いやんせ色)

| かごんまの赤 ②基本色名

## ③カラーサンプル

7.5R4/14  
C0 M100 Y100 K10  
DIC F102  
R185 G32 B33

この世には三種類の応援があると思う。心を落ち着かせる「青」の応援。明るく弾むような「黄」の応援。

そして力強く、勢いよく元気を注入する「赤」の応援だ。

頑張る人の背中を押すために、自分自身に負けないように、私たちは鮮烈な「赤」の応援を贈る。

「きばいやんせ」は、情熱的な鹿児島県民の合言葉だ。

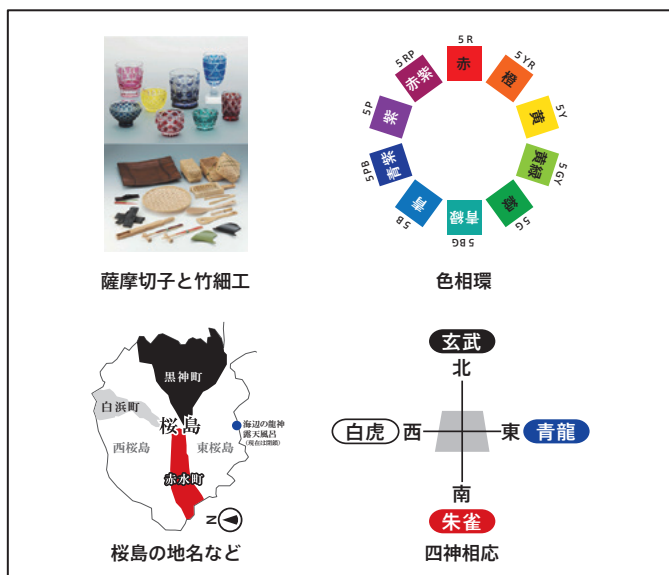
⑥DIC色番号

⑦RGB値

説明の見方

# ロゴマークについて

かごんまの色<sup>®</sup>のロゴマークも制作しました。色はまっぼしトーンを用い、形は鹿児島県の代表的な特産品である薩摩切子や竹細工をモチーフとしました。色の配置は色を環状に並べた図（色相環）や、鹿児島県のシンボルとも言える桜島の地名などの位置関係、鹿児島県でも古くから取り入れられてきた、風水によるまちづくりの考え方（四神相応）からヒントを得ました。ロゴマークには、かごんまの色<sup>®</sup>が「地域らしさ」を指し示す羅針盤のような存在になって欲しい、という願いが込められています。



写真提供／公益社団法人 鹿児島県特産品協会



かごんまの色<sup>®</sup>ロゴマーク

## きばいやんせ色 (気張いやんせ色)

| かごんまの赤



7.5R4/14  
C0 M100 Y100 K10  
DIC-F102  
R185 G32 B33

この世には三種類の応援があると思う。

心を落ち着かせる「青」の応援。明るく弾むような「黄」の応援。

そして力強く、勢いよく元気を注入する「赤」の応援だ。

「だれた～(疲れた～)」 「んにゃ!きばいやんせ!(いや!頑張れ!)」

頑張る人の背中を押すために、自分自身に負けないように、

私たちは鮮烈な「赤」の応援を贈る。

「きばいやんせ」は、情熱的な鹿児島民の合言葉だ。

## かいこうず色 (海紅豆色)

| かごんまの紅



5R3/10  
C0 M100 Y80 K30  
DIC-2487  
R139 G23 B43

夏の日差しの下、「かいこうず」が咲き誇っている。

花の形は鶏のとさかのよう。その後ろには濃緑の葉と青い空。

強烈なコントラストで南国の雰囲気を実際立させている。

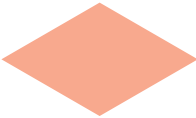
この大きな豆の木は、勇気、逞しさ、エネルギー、自由、個性、孤高、尊厳といったイメージを抱かせる。

枝葉を一杯に伸ばし、

「かいこうず」は堂々とした勝者のポーズをたたえている。

## めご色 (目籠色)

| かごんまの薄橙



2.5YR7/6  
C0 M40 Y40 K0  
DIC-C88  
R223 G158 B127

鹿児島県は、神話の時代から竹と深く関わってきた。

縄文時代の土器にも竹の跡が発見されている。

「めご」は目の詰まった美しい編み目の竹籠を指し、

今でも衣食住に欠かせない道具。

地元で愛されている「茶碗蒸しの歌」にも登場するほどである。

この色は、使われ続けて味わい深く成長し、

ぬくもり纏った「めご」の薄橙を表している。

## きんかん色 (金柑色)

| かごんまの橙



5YR6.5/14  
C0 M65 Y100 K0  
DIC-2528  
R242 G132 B0

「きんかん」は、果実よりも果皮の部分が甘く、香り爽やかな可愛い長球の柑橘類である。鹿児島県は生産量全国第2位の「きんかん」大国。その中でも、薩摩川内市入来地区のハウスきんかんで糖度が16度以上のもは、いききブランドと呼ばれる。一口食べれば太陽をまるかじりしたような感覚さえ抱くのだ。舌や鼻だけでなく、目でも楽しく味わうことができる「きんかん色」を抽出した。

## あつまっ色 (灰汁巻色)

| かごんまの茶色

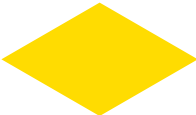


7.5YR3/3  
C75 M90 Y100 K0  
DIC-F264  
R92 G66 B46

「あつまっ(あくまき)」は郷土の餅菓子。戦国時代からの保存食で、餅米をあくて煮て竹の皮に包んだものである。端午の節句には昔はこの家でも「あつまっ」を作って子どもの成長を祝った。べっ甲のように輝く「あつまっ」は、プルプルの触感や香り、えぐみがあり、一度食べたら病みつきに。黒砂糖入りのきなこをまぶすのが一般的な食べ方だが、若い世代を中心に新たな食べ方が開発されている。

## てげてげ色 (てげてげ色)

| かごんまの黄



5Y8/13  
C0 M10 Y100 K0  
DIC-N805  
R236 G197 B0

「てげてげ」とは、「適当、ほどほど」を指す鹿児島弁である。不言実行、質実剛健ばかりでは心も体もだれてしまう(疲れてしまう)。「気負いすぎることなどない」と、ぼん、と肩を叩いてくれる思いやりの言葉である。「てげてげ色」には、もれなく笑顔や希望がついてくる。鹿児島県を訪れたとき、「てげてげ」をぜひ使ってみて欲しい。

## くすのき色 (楠色)

| かごんまの黄緑



7.5GY6/10  
C60 M5 Y100 K0  
DIC-211  
R102 G164 B45

「くすのき」は鹿児島県の代表的な木。

病気にも強く、天然の防腐剤や医薬品として古くから利用されてきた。

街路樹や神木として、馴染みのある樹木である。

そのためだろうか、鹿児島県では新緑萌える頃、

街中が一斉に爽やかで神聖な空気に包まれる。

若い木も樹齢1000年を越える巨木でさえ、生まれ変わって新葉をつける。

この色は「くすのき」の葉の表面が、陽を受けて輝く姿を集めた色である。

## おおすみだいち色 (大隅大地色)

| かごんまの緑



10GY4/8  
C90 M40 Y100 K0  
DIC-F304  
R36 G111 B42

鹿児島県を構成する双子の半島「薩摩半島」と「大隅半島」。

薩摩半島が商業中心ならば、大隅半島は自然中心である。

広大な大地と温暖な気候は、この地を自然の宝庫にさせている。

眩しい光、力強く伸びる植物、鬱蒼とした山地、蠢く生物の息遣い、

見渡す限り続く道、その先の大海原。

現代社会に生きる私たちを「おおすみだいち」は深く、

濃い緑を以てしっとりと包んでくれる。

## おがわんたき色 (雄川ん滝色)

| かごんまの青緑



5BG5/8  
C95 M5 Y50 K0  
DIC-217  
R0 G140 B133

南大隅町根占地区を流れている雄川上流にある滝であり、

雄々しくも絹のような繊細さを誇る。

滝壺には息をのむエメラルドグリーンの水面。

幾何学模様の節理が連なる岩肌を、伏流水がなでていく。

その雄大さは、近づくことをためらうほどに圧倒的だ。

滝まで続く遊歩道で浴びる絹の飛沫と、

迫り来る力強さのコントラストが印象的な「おがわんたき」は、

神秘の空間に迷い込んだ感覚にさせる色である。



## きんこうわん色 (錦江湾色)

| かごんまの水色



5B6/8  
C80 M5 Y10 K0  
DIC-N880  
R0 G162 B192

地元の人たちは鹿児島湾を「きんこうわん」と呼ぶ。

その由来は、山に咲く花々が鏡面のような波に映りこむ様子を錦にたとえた、薩摩藩初代藩主 島津家久氏の歌による。

「きんこうわん」は、水面は変化を常とし、同じ場所には留まらない。

今も昔も移ろう人の心の鏡のよう。

同時に、桜島を魅せる水の舞台であり、太平洋に向かう潮の道でもある。

この青は、「きんこうわん」が光を捉えた一瞬の永遠である。

## あいおおしま色 (藍大島色)

| かごんまの青



10B3/8  
C100 M70 Y40 K0  
DIC-N894  
R0 G79 B124

日本最古の染色技法をそのルーツに持つ大島紬。

大島紬と言えば泥染めが有名だが、

泥染めが発祥する前から織られていたのが、藍を用いた「あいおおしま」。

かつて「あいおおしま」は、白足袋が藍色に染まるほど色落ちしたものが上等だとされてきたが、生活習慣の変化により、

現在ほとんど生産されなくなってしまった。

この色は品格漂う濃淡が美しい、今となっては幻の逸品である。

## るりかけす色 (ルリカケス色)

| かごんまの瑠璃色



7.5PB3/10  
C100 M85 Y0 K0  
DIC-C269  
R52 G66 B137

「るり」とは仏教において七宝の一つとして珍重される青い宝石のこと。

その名を冠するこの鳥は、奄美大島、加計呂麻島、請島の固有種で、天然記念物でもある鹿児島県の宝だ。

冴え渡る青と赤褐色の、艶やかな二色の羽衣を纏い、

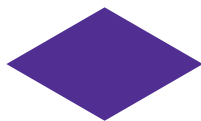
身をよじるたび光の対流が起きる。その衣の境目は、夜明け前、あるいは日が暮れる瞬間の空のような、絶妙なグラデーションだ。

ここでは「るりかけす」の名に準じ、

代表的な体色である紫がかった青色を指す。

## さつまむらさき色 (薩摩紫色)

| かごんまの紫



5P3/8  
C85 M100 Y0 K0  
DIC-F59  
R95 G55 B112

薩摩藩第11代藩主 島津斉彬氏に愛された硝子細工から抽出した色。  
この色の源は、明治初期から途絶えていたが、  
今この時代に、島津家末裔の手で甦ることとなった。  
贅沢なほど厚く鮮やかに被せられた色硝子と緻密なカットが織りなす  
豊かな色彩の中でも、特に高貴さを放つ色である。  
薩摩藩と島津氏に敬意を表して「さつまむらさき色」と命名した。

## からいも色 (唐芋色)

| かごんまの赤紫

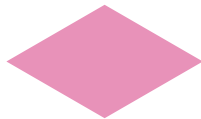


5RP3/4  
C80 M100 Y70 K0  
DIC-2254  
R99 G59 B77

「薩摩」の「芋」と書くさつまいもは、鹿児島県では「からいも」と呼ぶ。  
「琉球を通じて中国(唐)から来た芋」という意味である。  
水はけの良い火山灰に適し、台風に強いことから  
鹿児島県が生産量全国1位を誇る。  
青果に、焼酎に、飼料にと、その用途も色々。  
「腹ん減ったとっ(時)のからいもん皮(お腹が空いた時にはさつまいもの皮  
まで食べる。空腹が一番のご馳走だ)」は郷土のことわざ。  
「からいも」は、鹿児島の食を下支えする大事な作物である。

## さくらじま色 (桜島色)

| かごんまの桜色

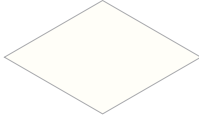


5RP6/8  
C0 M50 Y0 K5  
DIC-2459  
R200 G125 B153

彼はいつもマグマのような赤い情熱とエネルギーを内に秘め、  
太古の昔から人々と生きてきた。  
今でも堂々とした態度でそこにおいて、雄大な景色や恵みを与えてくれる。  
同時に、灰色の雨や噴煙は、度々人々を困らせる。その長所や短所を含め、  
すべては彼が生きている証であり、鹿児島県民に愛されるゆえんである。  
これは「さくらじま」という巨人に抱く親しみや憧憬、  
そして畏怖が入り混じった色である。

## かるかん色 (軽羹色)

| かごんまの白



N9.3  
C0 M0 Y3 K0  
DIC-583  
R235 G235 B235

薩摩藩主用の献立にも残る特別な和菓子。

西郷隆盛氏の好物でもあったそう。

原材料は自然薯と、当時では高級品でありつつも

奄美から比較的手に入りやすかった砂糖。

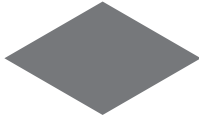
今では鹿児島名物として県内外の人々からも広く愛されている。

口に含めば、ねっちりふっくら、柔らかな甘みが広がる。

「かるかん」の白は、特別感とふるさとの温かみを感じさせる色だ。

## へ色 (灰色)

| かごんまの灰色



N4.5  
C0 M0 Y0 K65  
DIC-C292  
R109 G109 B109

「へ」は、鹿児島 naturally の厳しさを最も端的に表す自然現象である。

ひとたび降れば交通機関は止まり、人や物、各種インフラにも悪影響を及ぼす。

そんな厄介な「へ」だが、鹿児島の人々は永い付き合いの中で

少しでも関係を改善できないかと克灰を試みてきた。

専用のごみ袋、路面清掃車の配備、陶磁器の釉薬としての活用など…

雄大な桜島と共に生きていくには、克灰術の開発はまだまだ続きそうだ。

## かごんますみ色 (鹿児島墨色)

| かごんまの黒



N1  
C10 M10 Y10 K100  
DIC-F132  
R28 G28 B28

かごんまの黒は、無彩色ではない。

その世界には彩り豊かな黒がある。

黒豚、黒牛、黒さつま鶏、薩摩黒合鴨、黒大島、黒酢、黒糖、黒麴、黒ぢよか、

黒薩摩、黒色磨研土器、アマミノクロウサギ、黒神、黒之瀬戸、黒潮…

ひとつひとつが、ふるさとに輝く色の宝石である。

かごんまのすべての地域らしさを混ぜ合わせれば、

それは豊かな「かごんますみ色」になったとさ。んだもしたん。

## \\ 主な活用事例 \\

活用事例

01

鹿児島大学共同研究開発商品

### 「あづまバッグ」(亀崎染工有限会社)

2019かごしまの新特産品コンクール 工芸・生活用品部門 鹿児島県知事賞受賞

鹿児島大学共同研究開発商品「あづまバッグ」は、大漁旗作りなどに使われる印染の伝統技法を活かしたショルダーバッグで、かごんまの色®の18色(帆布の生地色を、かるかん色としています)を使用しています。製作はすべて手作業で行われ、かごんまの色®で帆布が一刷毛一刷毛丁寧に染め上げられています。商品は、日本の伝統文様を施した「麻の葉」、「桜島」、「七宝」の三種類。

優れた技術・意匠とともに、機能性、地域の特性が活かされているとして、2019かごしまの新特産品コンクール(主催かごしまの新特産品コンクール実行委員会)で高く評価され、最高賞の鹿児島県知事賞を受賞しました。



提供/かごしまの新特産品コンクール実行委員会

活用事例

02

共同研究

### 「LANGLEY(ラングレイ)」(三井ホーム鹿児島株式会社)

第23回 グッド・ペインティング・カラー 内装部門 最優秀賞受賞



提供/三井ホーム鹿児島株式会社

「LANGLEY」は、三井ホーム鹿児島(株)と共同で開発した鹿児島モデルハウスです。地域に根付いた、当たり前の色彩を「かけがえのない地域資源」として再解釈し、色彩を通じたローカルアイデンティティを醸成する住空間を目指しました。内装には、かごんまの色®のりりかけす色、めぐご色に基づいた色彩を使用しています。かごんまの色®を現代の住まいに取り入れることで、地方創生に寄与するとともに、地域に根ざしたユニークな取組であるとして、第23回 グッド・ペインティング・カラー(主催グッド・ペインティング・カラー委員会)において高く評価され、最優秀賞を受賞しました。

活用事例  
03

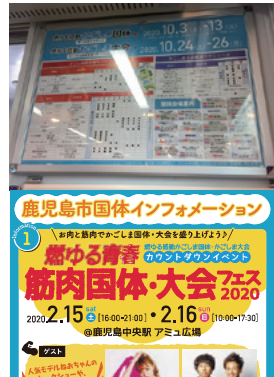
## 「かごしま国体・大会広報物」

(燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会鹿児島市実行委員会)

「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」は、2023年に開催予定のスポーツの祭典です。鹿児島市実行委員会制作による、様々な広告物にかごんまの色<sup>®</sup>が使用されました。関連イベントの新聞広告のほか、市電車内広告に、きんこうわん色<sup>®</sup>が使用され、はつらつとした活力あふれるスポーツ大会を色彩で盛り上げています。

(かごしま国体・大会は2020年から2023年へ延期されました。)

写真は2020年の国体・大会に向けて制作・掲出されたものです。)



活用事例  
04

## 「鹿児島県信用保証協会広報物」

(鹿児島県信用保証協会)



鹿児島県信用保証協会が月に1度発行している刊行物「保証月報」に、かごんまの色<sup>®</sup>が令和2年度の1年間に渡って使用されました。

また、「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」を契機に創設された、事業活動を展開する中小企業者を支援する「チェスト保証」のパンフレットには、かごしまPRキャラクターの「ぐりぶー」とともに、かごんまの色<sup>®</sup>の12色が採用され、県民一体となって鹿児島県を盛り上げるといったコンセプトが表現されました。

活用事例  
05

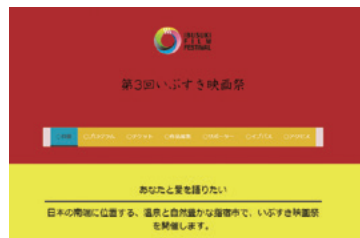
## 「いぶすき映画祭広報物・映像作品」

(特定非営利活動法人 指宿ムービープロジェクト)

「いぶすき映画祭」は、指宿から映画文化を発信するプロジェクトです。そのウェブサイトに、きばいやんせ色、めご色、きんこうわん色などが使用されました。

また、かごんまの色<sup>®</sup>をきっかけに、指宿市のイメージカラー「いぶすきいろ」も開発されました。

さらに、同プロジェクト制作による「あなたの鹿児島思い出が映像になって蘇る」というコンセプトの映像作品(「あな映」)にも、かごんまの色<sup>®</sup>の活用が予定されています。



活用事例  
06

## 「プラスチックのカラーデザイン」

(オーケー化成株式会社)

「プラスチックのカラーデザイン」は、オーケー化成(株)とのコラボ企画として誕生しました。かごんまの色®からインスピレーションを得て制作された5種類は、「桜島吹雪」、「幻光青緑」、「和籠薄茶」、「緑風帆布」、「紫切子」と命名されています。このうち「桜島吹雪」は、環境にやさしい再生プラスチックを用い、さくらじま色、きんこうわん色、へ色がマーブル状に混じり合った実験的な作品となっています。「幻光青緑」は、Blue Storyシリーズとしても展開されています。



提供/オーケー化成株式会社



活用事例  
07

## 「大学ブランディング」

(鹿児島大学)

産学・地域共創センター「KYOSO70 Lab.」のイメージカラーとして、1階はあいおしま色が、2階はかごんますみ色が使用されました。かごんまの色®が施された扉には、オリジナル色名も付されています。共同獣医学部研究棟Bの男女用トイレには、るりかけす色、めご色に基づいた内装が使用されました。モノトーン調の室内空間に華やかさを与えています。広報センターが制作する電車車内広告(令和元年11月号)にも、あいおしま色、きんかん色、くすのき色などが活用されました。

活用事例  
08

令和2年度かごしま発イノベーション創出支援事業 採択研究

## 「新たな大島紬商品」

(産官学繊維染色ワーキンググループ)

産官学繊維染色ワーキンググループは、(有)中江絹織物、(有)大瀬商店、渡絹織物、瀬戸房子<sup>1)</sup>、牧野暁世<sup>2)</sup>、東みなみ<sup>3)</sup>、山下宣良<sup>4)</sup>(敬省略)による研究グループです。

大島紬業界のさらなる発展を牽引することを目指し、それぞれの専門を活かしながら、かごんまの色®を活用した新たな大島紬商品(大島紬の製造方法を利用した製品)を開発しています。



<sup>1)</sup>鹿児島大学教育学部 <sup>2)</sup>鹿児島大学キャリア形成支援センター

<sup>3)</sup>鹿児島県工業技術センター <sup>4)</sup>元鹿児島県工業技術センター



## かごんまの色® ご利用にあたって

かごんまの色® は、「鹿児島県らしさ」を色で表現するために鹿児島大学 環境色彩学研究会(以下、本研究会)が開発したカラーセットの総称です。以下の利用規定をお読みいただき、同意された場合にのみご利用ください。

### 利用規定

#### 1. 利用範囲

かごんまの色® は鹿児島大学の登録商標です。「かごんまの色® 」や、**その他著作物**をご利用いただく場合、利用希望者は鹿児島大学と登録商標及び著作物使用許諾契約を締結する必要があります。**事前に鹿児島大学にお問い合わせください。**

かごんまの色® のうち、カラーサンプル、色彩値は、個人、法人、商用、非商用問わず無料でご利用いただけます。これらのご利用について、個別の許諾申請は不要です。

ただし、以下の場合、ご利用そのものをお断りします。

- ・公序良俗に反する目的でのご利用
- ・かごんまの色® のイメージを損なうようなご利用
- ・かごんまの色® カラーセットそのものをコンテンツ・商品として再配布・販売すること
- ・その他著作権が不適切と判断した場合

#### 2. 著作権

かごんまの色® に係る著作権は全て本研究会に帰属しています。

#### 3. 免責

かごんまの色® のご利用は、利用者の責任において行うものとします。

本研究会は、利用者によるかごんまの色® のご利用が、第三者の産業財産権をはじめとする一切の知的財産権を侵害しない旨の保証はしません。

内容については、細心の注意を払って作成していますが、正確性、有用性、確実性、安全性について保証するものではありません。

また、ご利用上発生する色違い、色変化等のクレームについては何卒ご容赦ください。

ご利用にあたり、不利益、損害、実績が得られない等のあることがありましても、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

#### 4. その他

かごんまの色® の内容及び利用規定は予告なく改変する場合があります。あらかじめご了承ください。

#### 問合せ先

【利用について】鹿児島大学 南九州・南西諸島域イノベーションセンター 知的財産係  
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-40

TEL 099-285-3878 / E-mail tizai@kuas.kagoshima-u.ac.jp

【研究について】鹿児島大学 環境色彩学研究会 牧野 暁世  
E-mail k5671479@kadal.jp

## かごんまの色® まっぼしトーン編 [第2.1版]

ISBN978-4-9910387-2-3

2023年10月26日 第2.1版第1刷

非売品

著者 鹿児島大学 環境色彩学研究会 (牧 将暉、真辺 綾音、吉留 和希、浅井 祐紀、森 未来、牧野 暁世)

発行所 牧野 暁世 環境色彩学研究室

協力 鹿児島県 PR・観光戦略部かごしま PR 課、鹿児島市世界遺産・ジオパーク推進課、桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会、鹿児島市危機管理課、鹿児島市都市景観課、燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会鹿児島市実行委員会、公益社団法人 鹿児島県特産品協会、特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会、特定非営利活動法人 桜島ミュージアム、特定非営利活動法人 指宿ムービープロジェクト、鹿児島県信用保証協会、関西ペイント販売株式会社 鹿児島営業所、DIC グラフィックス株式会社、三井ホーム鹿児島株式会社、オーケー化成株式会社、亀崎染工有限会社、era 色彩計画、産官学繊維染色ワーキンググループ、鹿児島大学、永田 泰弘、南 重秋 (順不同、敬称略)、地域の皆様

印刷・製本 斯文堂株式会社

お問合せ先 【利用について】鹿児島大学 南九州・南西諸島域イノベーションセンター 知的財産係

TEL 099-285-3878 / E-mail tizai@kuas.kagoshima-u.ac.jp

【研究について】鹿児島大学 環境色彩学研究会 牧野 暁世 E-mail k5671479@kadai.jp

\*かごんまの色®の色彩値情報は、各色に該当するマンセル値に基づき、RGB値、CMYK値及びDICの色番号を選定しました。

RGB値は日本色彩研究所製 色彩集計ソフトを、CMYK値は印刷会社のオリジナルカラーチャートを、

DICの色番号はDICグラフィックス㈱が発行する色見本帳「DIC カラーガイド」シリーズを用いて選定しました。

\*この印刷物はプロセスカラー (CMYK) で印刷しています。

\*この書籍は令和2年度かごしま発イノベーション創出支援事業の助成を受けて作成しました。

\*かごんまの色®は鹿児島大学の登録商標です。